

学校名	大分県立大分南高等学校
-----	-------------

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール 事業計画書

I 委託事業の内容

1. 研究開発課題名

九州から届け!!「福祉」南風プログラム開発
～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～

2. 研究の目的

生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーとなることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の開発を通して、社会福祉の発展を担う職業人を育成する。そして、本研究に基づいた福祉教育の指導の工夫・改善の継続と、小中学生や地域等への福祉の魅力発信の継続が、介護福祉人材の質の向上と量の確保につながる「『福祉（しあわせ）』の好循環」を創生し、持続可能な福祉社会の構築を目指す。

3. 実施期間

契約日から 2021年 3月15日まで

※ 最長で当該年度の3月15日（3月15日が行政機関の休日に当たる場合は直前の開庁日）まで

4. 当該年度における実施計画

【研究の重点項目】

- 1～2年次で習得した知識・技能に基づいて、実践的・体験的な学習活動を発展させ、主体的・協働的な態度で自らの取組を発信できる力を育成するための教育内容・指導方法等の研究
- 3年間の取組を通して身につけた、先進的な専門性、豊かな創造性・人間性、確かな主体性をジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーとしての意識醸成につなげるための教育内容・指導方法等の研究

(1) 先進プロジェクト

研究のねらい

先進的な内容の講義、体験学習、介護実習等を通して、介護福祉士としての災害時の福祉支援力、介護ロボット等の有用性を活用した技術力、認知症ケアメソッドの研究、外国人支援の「Welfare English」など幅広い知識と、高度な技能を身に付けさせ、先進的な専門性を高める。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>1-② 介護ロボット等の 有用性研究</p>	<p>〈目標〉 介護ロボットや福祉用具には、移乗型、コミュニケーション支援型等の機能があり、利用者の自立支援、介護者の負担軽減等の役割が期待されている。その機能や役割等を講義、体験研修、介護実習での実践を通して学び、介護ロボット等を活用した介護技術力を向上させるとともに、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性についての研究を深め、発表をする。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護ロボット等の実践から、介護従事者の負担軽減、介護職場のイメージアップにつながる有用性について研究を深め、発表する。 <p>【関連科目】介護福祉基礎、介護実習</p> <p>【協力機関】大分県社会福祉介護研修センター、ロボットメーカー、介護実習施設</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションロボットを活用した「利用者とのコミュニケーション技術」の習得状況（レポート） ○介護ロボットを活用した「抱え上げない介護技術」の習得状況（レポート、介護技術の成果発表） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）
<p>1-⑤ 外国人支援の 「Welfare English」 の習得学習</p>	<p>〈目標〉 大分県は立命館アジア太平洋大学などがあり多くの外国人留学生在が居住している。また、県内の観光地には、外国人観光客も多く訪れる。彼らは近年の大きな災害に遭遇し、言葉の通じない中で不安な日々を過ごしている。また、大分国際車いすマラソン大会は世界的にも有名な大会で、多くの外国人選手が大分県に集まる。このような外国人への福祉的な支援ができるよう「Welfare English」を「コミュニケーション英語」の授業や医療・福祉英語検定を受検することで習得し、外国人留学生への聞き取り調査等で活用し、実践的な英語力を身に付けさせる。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション英語Ⅱ」の授業の教材として、介護支援技術の場面を想定して英語力を向上させ、実践力を高める。 ・「医療・福祉英語検定（3級）」合格を目指す。 <p>【関連科目】コミュニケーション英語Ⅱ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分国際車いすマラソンでのボランティア活動を通して英語力を活用し、実践力を高める。

	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」や「海外の福祉事情」等を聞き取り、会話力、課題解決力を高める。 <li style="padding-left: 20px;">【関連科目】介護福祉基礎 ・海外からの技能訓練生との介護技術交流をはかり、介護のグローバル化の視点を身に付ける。 <li style="padding-left: 20px;">【関連科目】生活支援技術 <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーション英語の授業教材として介護技術に関する教材を用いることによる、実用的な英語力の向上（レポート、成果発表） ○留学生の福祉に関する困りごとや海外の福祉事情調査を通じた課題解決力（レポート、成果発表） ○医療・福祉英語検定の合格者数 3級 10名 ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）
--	--

(2) 連携プロジェクト

研究のねらい

大学、地域、他の福祉科系高等学校等との連携学習を通して、利用者や地域、多職種の状況、課題等を共有、理解することで、利用者や地域に応じた発想力、課題解決力を身につけさせ、豊かな創造性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
2-① 大分大学福祉健康科学部との「介護実践力向上」協働学習	<p>〈目標〉</p> <p>大分大学福祉健康科学部は、福祉医療分野の学部学科との連携を図りながら、福祉実践者の育成を行っている。まさに、介護福祉の理想とする学びを実践している大学である。そのような学びを深めた大学生との協働学習を通して、利用者に対する理解を深め、多方面からの気づきができる観察力をつけ、よりよい援助を行うことのできる援助者になる力をつける。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実習中に実施する利用者の「個別援助計画Ⅱ」を大学生との多職種協働学習で作成することで、利用者のニーズに応じた支援の方法に気づくなど発想力を身につける。 <li style="padding-left: 20px;">【関連科目】介護過程 <li style="padding-left: 20px;">【協力機関】大分大学福祉健康科学部 <li style="padding-left: 20px;">【実施場所】大分南高校 <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○介護実習中に実施する利用者の個別援助計画作成を大学生と協働学習することで気付いた発想力・課題解決力（レポート・成果発表等） ○大学生へのアンケート（4段階評価・平均評価3.0以上）

	○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（４段階評価 平均評価3.0以上）
2-② 介護福祉施設等との 「地域の福祉課題」解決学習	<p>〈目標〉 地域に目を向け、地域の課題に気づくことのできる力をつけることは、福祉実践者として重要なことである。「地域ふれあい活動」等校内活動の取組をとおして、観察力、発想力、課題解決力を身に付ける。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地域の居場所づくり」を校内で実施し、地域の福祉課題について理解することで、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割について考える。 <p>【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】大分市社会福祉協議会、判田地区社会福祉協議会 竹中・判田地域包括支援センター</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域ふれあい活動」の実践をとおした企画力・運営力、地域福祉の課題解決力（レポート、関係機関への提言集） ○関係者へのアンケート（４段階評価、平均評価3.0） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（４段階評価 平均評価3.0以上）
2-③ 福祉系高校との地域 福祉活性化交流学习	<p>〈目標〉 志を同じくする福祉系高校生との交流学习を通して、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付けるとともに、共に地域の社会福祉リーダーを目指す。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉系高校生との交流学习会で、各校の地域活性化の取組を発表・交流し、地域の福祉力を高める資質・能力を身に付け、将来のネットワーク作りを見通した交流活動とする。 <p>【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】中津南高校耶馬溪校</p> <p>〈効果測定〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県内の福祉系高校との交流学习（地域活性化の取組の発表・交流、外部講師による講演）等を通じたコミュニケーション力、リーダーシップ力（レポート、成果発表） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（４段階評価 平均評価3.0以上）

(3) マインド育成プロジェクト

研究のねらい

セミナーや研修を通して職場や地域で求められるリーダーとしての資質・能力、死生観・倫理観、認知症の理解力を高めることで、多様性を受容できる力、人間関係を調整できる力を身につけさせ、豊かな人間性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>3-② 死生観・倫理観育成セミナー</p>	<p>〈目標〉 死を間近にした人、重い病気を患う人、終末医療・介護に携わる人からの様々な発信から、自らが経験したことのない他者の気持ちに寄り添い、こころのケアのできる介護力を身に付ける。</p> <p>〈具体的内容〉 死生観・倫理観についての講義、演習等から終末期のこころのケアを理解する。</p> <p>【関連科目】 ころとからだの理解 【協力機関】 やまおかクリニック、病院</p> <p>〈効果測定〉 ○終末期のからだとこころのケアを死生観・倫理観についての講義・演習をとおした理解の深まり（レポート） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>3-③ 地域の認知症理解力向上を目指したキャラバン・メイト養成研修</p>	<p>〈目標〉 高齢化の進展に伴う認知症高齢者の増加は、大きな社会問題となっている。専門職や専門施設のみでこの問題に取り組むことは難しく、認知症の理解者を増やすことが必要である。生徒自らが認知症に関する確かな知識・技術を身につけ、認知症キャラバン・メイトとなり、認知症サポーター養成講座の企画、運営を行うことで、地域の福祉力向上を目指す。</p> <p>〈具体的内容〉 認知症キャラバン・メイトとして、地域の福祉力向上を目指して、認知症予防体操を企画・開発し、校内・地域での認知症サポーター養成講座で普及活動を行う。</p> <p>【関連科目】 介護福祉基礎 【協力機関】 大分県福祉保健部、大分市福祉保健部、竹中・判田地域包括支援センター、大分市社会福祉協議会、公民館</p> <p>〈効果測定〉 ○認知症キャラバン・メイト研修の受講や養成活動をとおしての認知症への理解の深まり（レポート） ○認知症キャラバン・メイト養成者数 20人 ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

(4) 発信力プロジェクト

研究のねらい

「先進プロジェクト」、「連携プロジェクト」、「マインド育成プロジェクト」で身につけた力を「発信力プロジェクト」で南高生地域福祉講座や、「おおいたの福祉力」提言活動、メディア等の活用等を通して企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育成する。

研究内容・方法

研究内容	目標・具体的内容
<p>(1-Ⅱ) 南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」の企画・運営</p>	<p>〈目標〉 南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」の企画・運営することで、災害時の福祉支援力を高める。</p> <p>〈具体的内容〉 【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】熊本学園大学、大分市社会福祉協議会、</p> <p>〈効果測定〉 ○南高生地域福祉講座Ⅱ「福祉防災教室」の実施を通じた企画力・運営力・伝える力（企画書・レポート） ○地域福祉講座Ⅱ参加者へのアンケートの実施（4段階評価、平均評価3.0以上） ○福祉防災教室参加者：30人 ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>(1-Ⅲ) 南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座Ⅱ」の企画・運営</p>	<p>〈目標〉 地域住民を対象とした南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座」を企画・運営し、介護ロボット等の有用性を施設職員と共に検証する。</p> <p>〈具体的内容〉 【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】大分県社会福祉介護研修センター 大分市社会福祉協議会、地域住民</p> <p>〈効果測定〉 ○南高生地域福祉講座Ⅲ「介護支援ロボット活用・介護技術講座」の実施を通じた企画力・運営力・伝える力（企画書・レポート） ○地域福祉講座Ⅲの参加者へのアンケートの実施（4段階評価、平均評価3.0以上） ○「介護支援ロボット活用・介護技術講座」の参加者：20人 ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

<p>(1-IV) 南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営</p>	<p>〈目標〉 認知症キャラバン・メイトとして地域の福祉力向上を目指して、認知症ケアメソッドを活用して、地域の小中学校や公民館での南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」を企画・運営する。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <p>【関連科目】介護福祉基礎 【協力機関】大分県福祉保健部、大分市福祉保健部 竹中・判田地域包括支援センター</p> <p>〈効果測定〉 ○南高生地域福祉講座Ⅳ「認知症サポーター養成講座」の実施を通じた企画力・運営力（企画書・レポート） ○認知症予防体操の普及活動回数：5回 ○認知症サポーター養成者数：500人 ○地域福祉講座Ⅳの参加者へのアンケートの実施（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>(2) 提言集「おおいたの福祉力」作成・配布</p>	<p>〈目標〉 今後大分県では、福祉・介護人材の育成とその質の向上がますます求められ、成長戦力1つとして福祉政策等の充実が図られることで、大分県の福祉力が高まることが期待されると考える「おおいたの福祉力」を提言するために、各プログラムをまとめ、提言集を作成し、連携機関等へ配布する。</p> <p>〈具体的内容〉</p> <p>【関連科目】全科目 【配布先】大分県・市福祉保健部 大分県社会福祉介護研修センター 介護ロボットメーカー「レイトロン」</p> <p>〈効果測定〉 ○「おおいたの福祉力」を配布した関係者へのアンケートの実施（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

<p>(3) 「福祉教育フェスティバル（成果発表会）」の開催</p>	<p>〈目標〉 『福祉（しあわせ）』南風プログラム」をまとめ、「福祉教育フェスティバル」を企画・運営する。</p> <p>〈具体的内容〉 【関連科目】全科目 【実施場所】大分南高等学校</p> <p>〈効果測定〉 ○「『福祉』南風プログラム」の取組等を披露するための「福祉教育フェスティバル」の企画・運営・伝える力（発表、レポート） ○「福祉教育フェスティバル」参加者数 400人 ○「福祉教育フェスティバル」参加者へのアンケート実施（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>
<p>(4) 「『福祉』南風プログラム」の取組の映像等での記録・編集と情報発信</p>	<p>『福祉（しあわせ）』南風プログラム」の映像等による記録を編集することで、イメージアップにつながる情報発信を目指して活用力・企画力・伝える力を身につけていく。</p> <p>〈具体的内容〉 【関連科目】全科目 【協力機関】大分県教育庁チャンネル、報道機関</p> <p>〈効果測定〉 ○「『福祉』南風プログラム」での取組等の映像記録化と、それを活用した様々な機会での情報発信する企画力・運営力・伝える力（企画書・レポート） ○「『福祉』南風プログラム」の取組の映像等の視聴者へのアンケートの実施（4段階評価 平均評価3.0以上） ○「求められる介護福祉士像」「資質・能力」「福祉理解度」「南風プログラム到達度」測定（4段階評価 平均評価3.0以上）</p>

5. 実施体制

(1) 研究担当者

氏名	職名	担当教科・役割分担（◎責任者） ※表1 研究内容番号
南 富美子	教諭	福祉科 ・全研究項目の把握・確認 ◎1-①、◎4-①、1-④、2-②、3-③、4-③
大井手 久美	教諭	福祉科 ・研究実務・全研究項目の把握・確認 ◎1-④、◎4-②、◎4-③、1-①、1-②、2-①、3-①、4-①
戸次 連実	教諭	福祉科 ◎1-⑤、◎2-①、1-③、2-③、4-④
児玉 美紀子	教諭	福祉科 ◎2-②、◎3-①、1-⑤、3-②、4-①
加藤 芙夕子	教諭	福祉科 ◎1-②、◎4-④、1-③、3-③、4-①、
福嶋 悠乃	教諭	福祉科 ◎3-③、◎2-③、1-②、1-④、2-①、4-①
吉岡 聖子	教諭	福祉科 ◎1-③、1-①、2-①、2-②、2-③
道脇 法子	臨時講師	福祉科 ◎1-②、◎3-②、2-②、3-①、4-①
吉田 純子	臨時講師	福祉科 ◎1-③、1-⑤、2-①、4-②、4-③
廣瀬 富士夫	教諭	英語科 ◎1-⑤

【表1 研究内容番号】

1 先進プロジェクト	2 連携プロジェクト	3 マインド育成プロジェクト	4 発信力プロジェクト
①災害時の福祉支援力体験学習 ②介護ロボット等の有用性研究 ③認知症ケアメソッドの研究 ④福祉先進国視察研修 ⑤外国人支援の「Welfare English」習得学習	①大学との多職種協働学習 ②介護福祉施設等との地域の福祉課題解決学習 ③福祉系高校との地域福祉活性化交流学习	①サーバントリーダーシップ育成セミナー ②死生観・倫理観育成セミナー ③認知症キャラバン・メイト養成研修	①南高生地域福祉講座の実施 ②「おおいたの福祉力」の提言 ③「福祉教育フェスティバル」開催 ④メディア等を活用した南風プログラム発信

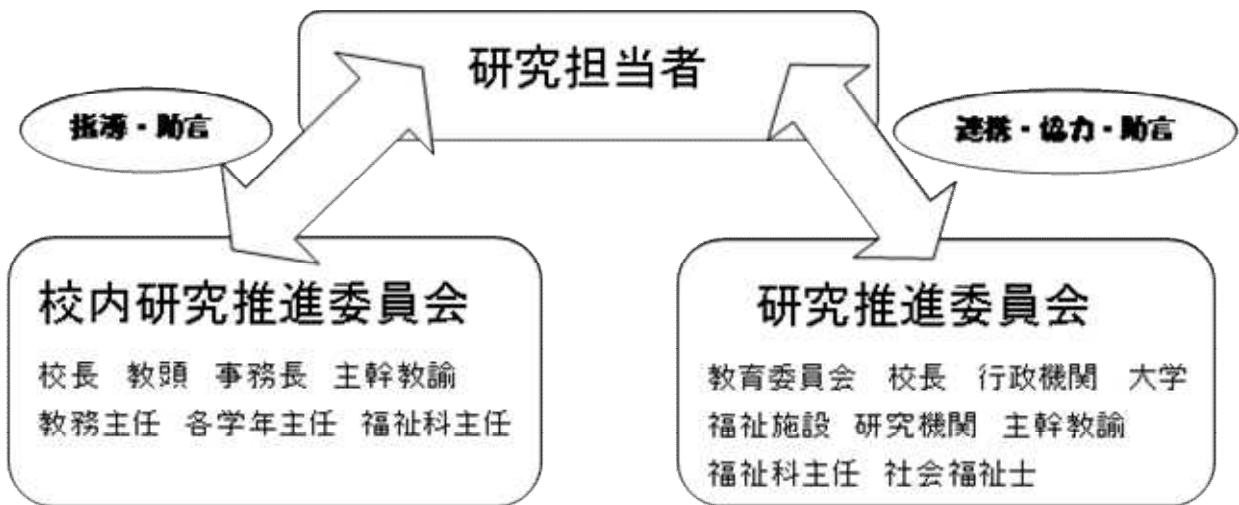
(2) 研究推進委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
鹿嶋 隆志	大分共同社会福祉士事務所・社会福祉士	・取組の全般 ・社会福祉 ・ソーシャルワーク
廣野 俊輔	大分大学 福祉健康科学部・講師	・取組の全般 ・社会福祉 ・福祉健康科学部との多職種協働学習
黒木 邦弘	熊本学園大学 社会福祉学部・准教授	・取組の全般 ・災害時の福祉支援力
衛藤 規久子	社会福祉法人 龍和会・理事 (大分南高校ネットワーク協議会会長)	・取組の全般 ・地域の福祉課題解決学習
佐藤圭一郎	大分県社会福祉介護研修センター 介護研修・総合相談部 兼 県介護ロボット普及推進班	・介護ロボット等の研究
吉村 一彦	大分県福祉保健部 高齢者福祉課 地域包括ケア推進班・主幹	・認知症キャラバン・メイト養成
徳地 喜和子	大分県教育庁高校教育課指導主事 兼産業教育指導班課長補佐	・取組の全般
三代 順一	大分県立大分南高等学校・校長	・取組の全般
後藤 香代子	大分県立大分南高等学校・教頭	・取組の全般
小幡 英二	大分県立大分南高等学校・教頭	・取組の全般
秋月 芳枝	大分県立大分南高等学校・事務長	・会計全般
野村 浩之	大分県立大分南高等学校・主幹教諭	・取組の全般
甲斐 亮介	大分県立大分南高等学校・指導教諭	・取組の全般
南 富美子	大分県立大分南高等学校・福祉科主任	・取組の全般
大井手 久美	大分県立大分南高等学校・SPH主担当	・取組の全般

(3) 運営指導委員会

氏名	所属・職名	役割分担・専門分野等
片岡 晶志	大分大学 福祉健康科学部 学部長	研究全体の評価 学識経験者・リハビリテーション 医学全般
三浦 晃史	大分県介護福祉士会 顧問	研究全体の評価 社会福祉・介護福祉
大塚 悦子	社会福祉法人 みずほ厚生センター 四季の郷 施設長	研究全体の評価 介護福祉施設経営
衛藤 龍	医療法人社団親和会 衛藤病院 院長	研究全体の評価 地域医療・地域福祉
猪俣 知三	(株)大分放送 常務取締役	研究全体の評価 地域福祉・情報通信
鷺司 匡亮	(株)大銀経済経営研究所 取締役本部長	研究全体の評価 地域福祉・経済経営
黒田 光代	大分県福祉保健部高齢者福祉課 課長	研究全体の評価 福祉行政
久保田 圭二	大分県教育庁高校教育課 課長	学校教育

(4) 校内における体制図



6. 研究内容別実施時期

活動時期	活動の内容
4月	コミュニケーション英語での Welfare English の習得 医療・福祉英語検定の合格（3級）を目指す（7月第1日曜） 〈福祉科3年〉～1月
5月	（介護実習1） 介護実習中に作成する「個別援助計画Ⅱ」を大分大学学生と多職種協働学習で作成する 〈福祉科3年〉 協力：大分大学福祉健康科学部 場所：本校 2時間×1回 大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」「海外の福祉事情」等聞き取り調査を実施 ① 場所：別府市内 参加：生徒10名 引率教員2名 校内研究推進委員会
6月	（介護実習2） 「ノーリフティングケア（抱え上げない介護技術）」を介護福祉施設で実践（介護実習） コミュニケーションロボットを介護福祉施設で活用、有用性の研究（介護実習） 〈福祉科3年〉 海外からの技能訓練生との介護技術交流 場所：本校 参加：大分市在住の技能訓練生 5名 時間：2時間×1回 第1回研究推進委員会 第1回運営指導委員会
7月	医療・福祉英語検定3・4級受験 〈福祉科2, 3年〉 時期：7月第1日曜日 「地域ふれあい活動①」の実施 〈福祉科3年〉 内容：介護ロボット活用・介護技術講座 場所：本校 参加者：判田地域住民（タクシーまたはバスで送迎を実施） 時間：2時間 地域の福祉課題の解決策や地域の困りごと（生活上の困り）についての話し合い 場所：本校 時間：2時間×1回 参加：本校生徒10名、教員2名、大分市社会福祉協議会、 竹中・判田地域包括支援センター、判田地区の自治委員等、 指導・助言：国東市 生活支援員、 国東市旭日地区ネットワーク協議会会長 耶馬溪 生活支援員

8月	<p>九州地区高校生介護技術コンテストにてSPH生徒発表 場所：鹿児島県鹿児島市 参加：生徒4名 引率教員1名</p> <p>全国福祉高等学校長会総会にてSPH発表（2日間参加） 場所：大阪府大阪市 参加：教員3名</p> <p>認知症予防体操の開発 動画撮影：業者に依頼</p> <p>大分南高校オリジナル「ノーリフティングマニュアル」作成 冊子：1000部 動画撮影：業者に依頼</p> <p>校内研究推進委員会</p>
9月	<p>大分県内在住の外国人留学生に「福祉の困り」「海外の福祉事情」等聞き取り調査を実施 ②</p> <p>場所：別府市内 参加：生徒10名 引率教員2名</p> <p>福祉系高校との交流学习（耶馬溪高校） 場所：中津南高校耶馬溪校 参加：生徒10名 引率教員2名</p> <p>地域の居場所づくりをとおして、地域の福祉課題について学ぶ ニーズにあった支援の実施（例）ゴミ出しや掃除等の手伝い</p>
10月	<p>全国さんフェア大分大会SPH発表・体験コーナー参加 場所：SPH発表 別府ビーコンプラザ（生徒71名参加）貸し切りバス2台利用 体験コーナー ホルトホール（生徒8名参加）ジャンボタクシー利用 参加：福祉科生徒79名 引率教員9名</p> <p>判田小学校認知症サポーター養成講座開催 場所：判田小学校 参加：2、3年福祉科生徒 10名 引率教員 2名</p>
11月	<p>「地域ふれあい活動②」の実施（福祉科3年） 内容：認知症サポーター養成講座・福祉防災教室 場所：本校 参加者：判田地域住民（タクシーまたはバスで送迎を実施）</p> <p>介護福祉士会を対象とした「ノーリフティングケア講座」を実施し、検証する。 場所：本校 時間：4時間×2回 参加：3年福祉科生徒、介護福祉士会（施設職員） 指導・助言：大分ノーリフト協会</p> <p>判田中学校認知症サポーター養成講座開催 場所：判田中学校 参加：2、3年福祉科生徒 10名 引率教員 2名</p> <p>大分国際車いすマラソンボランティア活動</p>

12月	<p>死生観・倫理観についての講義、演習 場所：本校 参加：福祉科3年79名 講師：大分県内在住看護師 『福祉（しあわせ）』南風プログラム』をまとめ、SPH福祉教育フェスティバル2020（成果発表会）を企画・運営する。 場所：本校 参加者：判田地域住民（バスで送迎） 「おおいたの福祉力」を提言するために、各プロジェクトの取組をまとめ。提言集を作成し、連携機関等へ発表する。 発表先：介護ロボットメーカー「レイトロン」大阪府大阪市 大分県・市福祉保健部 大分県社会福祉介護研修センター 発表者：生徒4名、引率1名</p>
1月	<p>第2回SPH研究推進委員会 第2回SPH運営指導委員会</p>
2月	<p>『福祉（しあわせ）』南風プログラム』をまとめ、事業報告書作成</p>

7. この事業に関連して補助金等を受けた実績

補助金等の名称	交付者	交付額	交付年度	業務項目
※特になし				

8. 知的財産権の帰属

※ いずれかに○を付すこと。なお、1. を選択する場合、契約締結時に所定様式の提出が必要となるので留意のこと。

- () 1. 知的財産権は受託者に帰属することを希望する。
(○) 2. 知的財産権は全て文部科学省に譲渡する。

9. 再委託に関する事項

再委託業務の有無 有 (無)

II 委託事業経費

別紙1に記載

III 事業連絡窓口等

別紙2に記載

学校名	大分県立大分南高等学校
-----	-------------

所要経費

① 3年次

(単位:円)

費目	種別	小計	積算内訳					書類番号等			
			摘要	人数等	単位	数量	単価		金額		
設備備品費		0				×	×	=			
人件費		918,748	非常勤報酬	10月	×	10日	×	9,160	=	916,000	1
			雇用保険料		×		×	0,009	=	0	
			労災保険料		×	916,000	×	0,003	=	2,748	2
諸謝金		205,400	研究推進委員会委員謝金	4名	×	2日	×	8,300	=	66,400	3・5
			運営指導委員会委員謝金	5名	×	2日	×	8,300	=	83,000	4・5
			海外からの技術訓練生との介護技術交流	5名	×	2時間	×	3,000	=	30,000	5
			「生活上の困り」話し合い指導助言	3名	×	2時間	×	3,000	=	18,000	5
			死生観・倫理観についての講義	1名	×	2時間	×	4,000	=	8,000	5
旅費		801,200	研究推進委員会委員旅費(県内)	3名	×	2回	×	1,200	=	7,200	3・7
			運営指導委員会委員旅費(県内)	5名	×	2回	×	1,200	=	12,000	4・7
			海外からの技術訓練生との介護技術交流	5名	×	1回	×	1,200	=	6,000	6
			「生活上の困り」話し合い指導助言者	3名	×	1回	×	1,200	=	3,600	6
			九州地区高校生介護技術コンテストSPH発表旅費(鹿児島)	5名	×	1回	×	36,000	=	180,000	6
			全国福祉高等学校長会・担当教員等研究協議会旅費(大阪)	3名	×	1回	×	40,000	=	120,000	6
			外国人留学生聞き取り調査	12名	×	2回	×	1,200	=	28,800	6
			死生観・倫理観についての講義	1名	×	1回	×	1,200	=	1,200	6
			福祉教育フェスティバル文部科学省調査官旅費(東京)	1名	×	1回	×	64,000	=	64,000	6
			SPH提言集連携機関発表(大阪)	5名	×	1回	×	40,000	=	200,000	6
			SPH提言集連携機関発表(県内)	5名	×	3回	×	1,200	=	18,000	6
			全国さんフェア(大分)リハ-サル生徒旅費	5名	×	1回	×	1,200	=	6,000	6
			全国さんフェア(大分)リハ-サル職員旅費	2名	×	1回	×	1,200	=	2,400	6
			文部科学省研究成果発表会旅費	2名	×	1回	×	64,000	=	128,000	6
			県内生徒引率・打合職員旅費	2名	×	10回	×	1,200	=	24,000	6
借損料		365,640	地域ふれあい活動用地域住民タクシー	2台	×	2回	×	19,800	=	79,200	7①
			福祉系高校との交流学習マイクロバス	1台	×	1回	×	59,840	=	59,840	7②
			全国さんフェア(大分)SPH発表バス借上	2台	×	1回	×	66,000	=	132,000	8
			全国さんフェア(大分)SPH発表バス駐車料	2台	×	1回	×	1,100	=	2,200	8
			全国さんフェア(大分)SPH体験コーナー生徒参加タクシー	1台	×	1回	×	13,200	=	13,200	7③
			福祉教育フェスティバル地域住民送迎	4台	×	1回	×	19,800	=	79,200	7①
消耗品費 (図書購入費含む)		35,252	全国さんフェアポスターパネル		×	4枚	×	2,178	=	8,712	9
			コピー用紙		×	15箱	×	1,716	=	25,740	10
			ファイル		×	8枚	×	100	=	800	
会議費		4,000	研究推進委員会お茶	12名	×	2回	×	100	=	2,400	
			運営指導委員会お茶	8名	×	2回	×	100	=	1,600	
通信運搬費		137,760	講師依頼・行事案内等送付用切手		×	60枚	×	84	=	5,040	11
			報告書送付用切手		×	280枚	×	390	=	109,200	11
			福祉教育フェスティバル案内切手代		×	280枚	×	84	=	23,520	11
雑役務費		1,006,500	研究開発成果報告書印刷	1.1(消費税率)	×	1000部	×	400	=	440,000	12
			ノーリフティングマニュアル印刷	1.1(消費税率)	×	1000部	×	300	=	330,000	12
			「おおいたの福祉」提言集印刷	1.1(消費税率)	×	1000枚	×	50	=	55,000	12
			全国さんフェアポスター用作成	1.1(消費税率)	×	6枚	×	2,500	=	16,500	12
			認知症予防体操・ノーリフティングマニュアル動画撮影		×	1式	×	165,000	=	165,000	13
その他		25,500	全国福祉高等学校長会・担当教員等研究協議会参加費	3名	×	1回	×	8,500	=	25,500	14
消費税相当額		0			×		×	=			
一般管理費		0			×		×	=			
再委託費		0			×		×	=			
合計		3,500,000									

※ 積算に当たっては、事業実施計画の内容との整合性に注意すること。
 専攻科を含んだ取組を行う場合は、専攻科の所要額も含めて記載すること。
 1円単位で記載すること。

② 経費の必要性と当該事業との関連性、及び積算根拠

種別	必要性及び関連性、積算根拠
設備備品費	
人件費	・SPHに関する事務作業に要する職員人件費
諸謝金	・運営指導委員会議、研究推進委員会議に関わる委員への謝礼金 ・講義に関わる講師への謝礼金
旅費	・運営指導委員会議委員・研究推進委員会議委員・講師に対する旅費 ・研修や行事への生徒・職員派遣旅費
借損料	・研修や行事への生徒・職員派遣バス等借上げ ・本校開催行事参加依頼地域住民交通手段用車両借上げ
消耗品費 (図書購入費含む)	・全国さんフェア展示用パネル ・コピー用紙ほか消耗品
会議費	・運営指導委員会議、研究推進委員会議に関わるお茶代
通信運搬費	・運営指導委員会議、研究推進委員会議、中間報告会等開催案内郵便切手 ・全国福祉高等学校校長会加盟校・及び連携機関等への報告書等送付用郵便切手
雑役務費	・当該年度分研究成果報告書及びノーリフティングマニュアル・ポスター等印刷 (全国福祉高校校長会加盟校・連携機関・県内県立高校及び福祉系私立高校・本校生徒・報告用等) ・マニュアル掲載動画撮影編集
その他	・全国福祉高等学校校長会・担当教員等研究協議会参加費
消費税相当額	
一般管理費	
再委託費	

③ 4年次以降の見込み

	所要見込額
3年次	円
4年次	円
5年次	円

※ 専攻科を含んだ取組を行う場合は、専攻科の所要額も含めて記載すること。
1円単位で記載すること。
専攻科を含んだ5年間の研究を行う場合は、4年次以降の見込額も記載すること。

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール
担当者名簿

① 3年次

都道府県名	大分県			
機関名	大分県教育委員会			
住所	〒870-8503	大分県大分市府内町3丁目10番1号		
電話番号	(代表)	097-536-1111	(内線)	5602
	(直通)	097-506-5602		
ファクシミリ番号	097-506-1796			
担当者	(所属・職名)	高校教育課 産業教育指導班 指導主事兼課長補佐		
	(氏名)	徳地 喜和子		
	(メールアドレス)	tokuchi-kiwako@pref.oita.lg.jp		

2 スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定学校

設置者名	大分県			
学校名	大分県立大分南高等学校			
住所	〒870-1109	大分県大分市判田台南1丁目1番1号		
電話番号	(代表)	097-597-6001	(内線)	
	(直通)			
ファクシミリ番号	097-5987-2577			
担当者	(所属・職名)	大分県立大分南高等学校・教諭		
	(氏名)	大井手 久美		
	(メールアドレス)	ooide-kumi@oen.ed.jp		

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール

事業計画書の概要

学校名	大分県立大分南高等学校			所在地	大分県大分市判田台南1-1-1			
学科名	生徒数							研究開発の実施規模
	1年	2年	3年	4年以上	専攻科1年	専攻科2年	計	福祉科において実施する。
	普通科	119	116	148			383	
	福祉科	80	79	76			235	
計	199	195	224			663		
研究開発課題	九州から届け!!「福祉」南風プログラム開発 ～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～							
研究のねらい	<p>現在我が国では、総人口が減少し、急速な高齢化が進む中、多様化・高度化する介護サービスの提供の必要性和、介護福祉人材の確保・養成に関する課題を抱えている。</p> <p>本研究では、生徒が将来、地域包括ケアシステムの中核を担うジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダーとなることを目指した「『福祉（しあわせ）』南風プログラム」を開発する。</p> <p>本研究を通して、社会福祉の発展を担う職業人を育成するとともに、福祉教育の指導の工夫・改善の継続と、小中学生や地域等への福祉の魅力発信の継続が、介護福祉人材の質の向上と量の確保につながる「『福祉（しあわせ）』の好循環」を創出し、持続可能な福祉社会の構築を目指す。</p>							
研究概要	<p>『福祉（しあわせ）』南風プログラムの開発では、下記の4つのプロジェクトを通して、先進的な専門性を高め、豊かな創造性・人間性を身に付けるとともに、確かな主体性を育み、社会福祉の発展を担う職業人を育成する。</p> <p>1 先進プロジェクト 介護福祉士としての災害時の福祉支援力、介護ロボット等の有用性を活用した技術力、認知症ケアメソッドの研究、福祉先進国の政策、外国人支援の「Welfare English」など幅広い知識と高度な技能を身につけさせ、先進的な専門性を高める。</p> <p>2 連携プロジェクト 大学、地域、県内の福祉系専門高校等との連携学習を通して、利用者や地域、他職種の状況、課題等を共有、理解し、利用者や地域に応じた観察力、発想力、課題解決力を身に付けさせ、豊かな創造性を育成する。</p> <p>3 マインド育成プロジェクト サーバントリーダーシップセミナーや認知症キャラバンメイト養成研修を通して、職場や地域で求められるリーダーとしての資質や認知症の理解力を高めることで、多様性を受容できる力、人間関係を調整できる力を身に付けさせ、豊かな人間性を育成する。</p> <p>4 発信力プロジェクト 上記3つのプロジェクトで身に付けた力を活かして「福祉教育フェスティバル」を企画・運営し、取組についてメディア等を活用して発信することで、企画力、運営力、伝える力を身に付けさせ、確かな主体性を育む。</p>							
教育課程の特例	特になし							
その他特記事項	特になし							

令和2年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールに係る管理機関の取組計画

管理機関名（ 大分県教育委員会 ）

対象となる指定校（ 大分県立大分南高等学校 ）

1 管理機関として把握している地域の実情とスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの関連について

○大分県の実情

- ・平成27年度「国勢調査」での都道府県別高齢化率は、本県は30.4%で、全国で10番目であり、平成52年（2040）には、36.7%まで伸びることが予想されている。
- ・本県の平成29年度（2017）の介護人材の充足率は100.1%であるが、平成37年度（2025）の充足率は94.8%に落ち込み、1216人の不足が生じると推計されている。
- ・（公財）介護労働安定センター「平成28年度介護労働実態調査」による介護職員の離職率は16.7%、本県の介護職員離職率は18.4%と、厚生労働省「平成28年度雇用動向調査」による産業全体の離職率15.0%を上回っている状況にある。
- ・少子高齢化・人口減少の大きな流れの中、本県では、地方創生を担う人材育成として「地域と連携した魅力・特色ある学校づくりの推進」、「地域を担う専門的職業人材の育成」など、「人を大事にし、人を育てる」施策を展開している。
- ・本県では、専門高校等において「卒業後、更に高度な知識・技能を身に付け、将来の専門的職業人として地域の産業・社会を担う人材の育成」をねらいとし、地域と連携した魅力・特色ある教育活動に積極的に取り組んでいる。

○スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールとの関連

- ・大分南高等学校でのスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業の取組は、社会福祉の発展を担う職業人を育成する取組として、介護福祉人材の確保・養成の課題解決に資するものである。
- ・本県の「地域と連携した魅力・特色ある学校づくりの推進」、「地域を担う専門的職業人材の育成」を目指した取組として、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業は、その中核に位置づけられる取組である。
- ・大分南高等学校でのスーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業の取組は、本県の職業教育振興の先導的な役割を担うことが期待される。
- ・大分南高等学校は、本県の福祉教育振興の核になる学校であり、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの取組を通して、大分県の福祉系高等学校をさらに牽引していく役割が期待される。

2 管理機関によるスーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの実施体制について

- 運営指導委員をはじめ、県教育委員会が実施する事業等を通して指導・助言を行う。
- 県の関係各課や他の行政機関、経済団体、企業や大学等への協力要請を行う。
- 事業担当指導主事が、指定校の活動に対して、準備段階から指導・助言を行う。
- 他の都道府県の指定校との交流や情報交換など当該教育委員会と協力して行う。

3 管理機関による研究成果の普及方策について

- 県教育委員会が主催する成果発表会の場を設ける。
 - ・令和2年度は「第30回全国産業教育フェア」が本県で開催されることから、事業指定校の研究成果を県内外に発信する場とする。
- 県教育委員会広報誌「教育だよりおおいた」に、事業指定校のプロジェクト内容・取組の様子、成果等を掲載し、全県の小学校・中学校・高等学校等へ配布する。
- 県教育委員会ホームページに、事業指定校のプロジェクト内容・取組の様子、成果等を紹介、動画のネット配信等を行う。
- 成果の普及・共有を図るため、成果報告書等を県内外の高等学校や連携・関係機関等へ配布する。

九州から届け!! 「福祉」南風プログラム開発

～ジェネラリストの視点をもつ地域を支える社会福祉リーダーの育成～



☆ 持続可能な福祉社会を構築 ☆

しあわせ
「福祉」の
好循環を創生



住まい

医療

高度で総合的な知識・技術と
経験を持ったリーダー

ジェネラリストの視点をもつ社会福祉リーダー

マネジメント能力と
改革・改善力を持ったリーダー

生活
支援

介護

予防

先進プロジェクト

先進的な専門性(幅広い知識・高度な技能)

- (1) 災害時の福祉支援力体験学習
- (2) 介護ロボット等の有用性研究
- (3) 認知症ケアメソッドの研究
- (4) 福祉先進国視察
- (5) 外国人支援の「Welfare English」習得学習

連携プロジェクト

豊かな創造性(観察力・発想力・課題解決力)

- (1) 大分大学福祉健康科学部との多職種協働学習
- (2) 介護福祉施設等との地域の福祉課題解決学習
- (3) 福祉系高校との地域福祉活性化交流学習



しあわせ
「福祉」南風プログラム
～ジェネラル・ケア・ティーチャーによる
福祉力発信～

発信力プロジェクト

確かな主体性(企画力・運営力・伝える力)

- (1) 南高生地域福祉講座実施
・ロボット活用・福祉防災・認知症サポーター養成
- (2) 「おおいたの福祉力」提言
- (3) 「福祉教育フェスティバル」実施
- (4) メディア等を活用した南風プログラム発信

マインド育成プロジェクト

豊かな人間性(多様性を受容できる力・人間関係調整力)

- (1) サーバントリーダーシップ育成セミナー
- (2) 死生観・倫理観育成セミナー
- (3) 認知症キャラバン・メイト養成研修

【評価の指標例】

- ・「求められる介護福祉士像」測定
- ・福祉理解度測定
- ・認知症キャラバン・メイト養成者数
- ・認知症サポーター養成者数
- ・医療・福祉英語検定合格者数

【大分南高校の強み】 ○介護福祉士養成者数：77名＝全国1位 ○介護福祉士国家試験合格率：100%（全国平均73.9%）※卒業生全員合格
○「福祉ネットワーク協議会」による連携体制構築（介護福祉施設・大分大学・大分県福祉保健部・大分県社会福祉協議会・佐伯豊南高校・耶馬溪校・小中学校）
【課題】○福祉マインドと福祉理解の向上

令和2年度 福祉科 第1学年 教育課程

大分県立大分南高等学校

教科		科目	標準 単位	1年	2年	3年	合計
各学科に共通する教科	国語	国語総合	4	3	2		8
		国語表現	3			3	
	地理歴史	世界史A	2			2	4
		日本史A	2		②		
		地理A	2				
	公民	現代社会	2	2			2
	数学	数学I	3	2	2		6
		数学A	2			2	
	理科	科学と人間生活	2		2		4
		生物基礎	2			2	
	保健体育	体育	7~8	3	2	2	7
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽I	2				2
		美術I	2	②			
書道I		2					
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			7	
	コミュニケーション英語II	4		2	2		
家庭	家庭基礎	2	2			2	
情報	社会と情報	2	2			2	
	情報の科学	2					
各学科に共通する科目小計				20	13	13	46
専門する教育に科	福祉	社会福祉基礎	2~6	2	1	1	4
		介護福祉基礎	2~6	1	2	2	5
		コミュニケーション技術	2~4	1	1		2
		生活支援技術	2~12	2	4	5	11
		介護過程	2~6		2	2	4
		介護総合演習	2~6	1	1	1	3
		介護実習	2~16	3	5	5	13
		こころとからだの理解	2~12	2	3	3	8
専門科目小計				12	19	19	50
計				32	32	32	96
総合的な探究の時間			3~6	0	0	0	0
単位数総計				32	32	32	96
ホームルーム活動				1	1	1	3

総合的な学習の時間は介護総合演習(3)により代替する。

令和2年度 福祉科 第2学年 教育課程

大分県立大分南高等学校

教科		科目	標準 単位	1年	2年	3年	合計
各学科に共通する教科	国語	国語総合	4	3	2		8
		国語表現	3			3	
	地理歴史	世界史A	2			2	4
		日本史A	2		②		
		地理A	2				
	公民	現代社会	2	2			2
	数学	数学I	3	2	2		6
		数学A	2			2	
	理科	科学と人間生活	2		2		4
		生物基礎	2			2	
	保健体育	体育	7~8	3	2	2	7
		保健	2	1	1		
	芸術	音楽I	2				2
		美術I	2	②			
書道I		2					
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			7	
	コミュニケーション英語II	4		2	2		
家庭	家庭基礎	2	2			2	
情報	社会と情報	2	2			2	
	情報の科学	2					
各学科に共通する科目小計				20	13	13	46
専門する教育に科	福祉	社会福祉基礎	2~6	2	1	1	4
		介護福祉基礎	2~6	1	2	2	5
		コミュニケーション技術	2~4	1	1		2
		生活支援技術	2~12	2	4	5	11
		介護過程	2~6		2	2	4
		介護総合演習	2~6	1	1	1	3
		介護実習	2~16	3	5	5	13
		こころとからだの理解	2~12	2	3	3	8
専門科目小計				12	19	19	50
計				32	32	32	96
総合的な探究の時間			3~6	0	0	0	0
単位数総計				32	32	32	96
ホームルーム活動				1	1	1	3

総合的な学習の時間は介護総合演習(3)により代替する。

教科		科目	標準 単位	1年	2年	3年	合計
各 学 科 に 共 通 す る 教 科	国語	国語総合	4	3	2		9
		現代文B	4			4	
	地理歴史	世界史A	2			2	4
		日本史A	2		②		
		地理A	2				
	公民	現代社会	2	2			2
	数学	数学I	3	2	2		6
		数学A	2			2	
	理科	科学と人間生活	2	2			4
		生物基礎	2			2	
	保健体育	体育	7~8	3	3	2	8
		保健	2	1	1		2
	芸術	音楽I	2				2
美術I		2	②				
書道I		2					
外国語	コミュニケーション英語I	3	3			7	
	コミュニケーション英語II	4		2	2		
家庭	家庭総合	4		2	2	4	
情報	社会と情報	2	2			2	
	情報の科学	2					
各学科に共通する科目小計				20	14	16	50
専 門 的 な 教 育 に 関 する 教 科	福祉	社会福祉基礎	2~6	2	2		4
		介護福祉基礎	2~6	2	1	2	5
		コミュニケーション技術	2~4	1	1		2
		生活支援技術	2~12	2	4	4	10
		介護過程	2~6		2	2	4
		介護総合演習	2~6	1	1	1	3
		介護実習	2~16	3	5	5	13
		こころとからだの理解	2~12	2	3	3	8
専門科目小計				13	19	17	49
計				33	33	33	99
総合的な学習の時間			3~6	0	0	0	0
単位数総計				33	33	33	99
ホームルーム活動				1	1	1	3

総合的な学習の時間は介護総合演習(3)により代替する。